

# 心理学研究科

## 在学生の声

- ↓ [ここでの学びを力に変えて](#) ↓ [犯罪心理学への招待](#) ↓ [経験から何を学ぶか](#)  
↓ [経験から学ぶ](#) ↓ [心理への興味を職につなげるために](#) ↓ [法務技官を目指して](#)

### ここでの学びを力に変えて

臨床心理学専攻 2年 長谷川 千陽 (2020年度 明治学院大学心理学部心理学科 卒業)



私は、学部頃から家族心理学及び家族療法に対して興味があり、同時に非行臨床といった司法・犯罪分野における子どもと家族への支援にも興味がありました。そのため、犯罪心理学領域に加え、臨床心理学の基礎と実践をしっかり学ぶことのできる駿河台大学大学院の臨床心理学専攻へ進学しました。

学部と大学院の大きな違いは、(1) 少人数体制で授業が行われること、(2) レジュメを作って発表し、議論する機会が多いこと、(3) 実習を通して実際のクライアントと関わることの3つであると感じています。

少人数であることで、発言する機会の多さや多様な考えを聴く機会が多くなり、結果として、自分の考え方を知る一方で、考え方の幅を広げることができました。また、レジュメを作って発表することは、自分の考えや研究の成果を整理し、相手にわかりやすく伝えるスキルを伸ばすことにつながったと感じています。

実習は、内部実習と外部実習の2つがあります。内部実習では、「いつ」「何を」「どこまで」きくのかという、面接の基本となるようなスキルを、付属の心理カウンセリングセンターでの業務(受付や電話対応、面接)を通して学んでいます。

一方、外部実習では、医療系の施設及び教育系などの施設に行くことになります。私は1年次の秋学期に病院へ実習に行きました。そこでは、心理面だけでなく、心身両面での治療や援助を必要としている患者さんとも関わる中で、医学系の知識のような隣接領域についても学ぶ重要性に気づいたり、実際に患者さんの予診(心理でいうと、インテーク面接に相当するもの)を取らせて頂く中で、自分の思考や話し方の癖に気づいたり、実際に臨床家として働くうえで自分に足りないことや自分にとって大切にすべきことなど、他の誰でもない臨床家としての“自分”について深く考える良い機会になりました。

大学院に進学すると、主体性、すなわち、自分で学び取っていく力が非常に求められます。しかし、これは、学び取った分だけどんどん自分の力になるということでもあります。

大学院への進学を検討されている方はぜひ、大学院での様々な学びを自分の力に変えていただけたらと思います！

### 犯罪心理学への招待

犯罪心理学専攻 2年 飯野綾花 (2020年度 京都ノートルダム女子大学現代人間学部卒業)



私は、心理学の中でも学際的な領域である犯罪心理について一番関心があったため、大学院に進学するのであれば犯罪心理学を専攻しようと決めていました。犯罪心理学を扱う大学院は他にもありますが、専門分野で活躍されていた先生方がいらっしゃることで、犯罪心理学を1つの独立した専攻として持つ日本で唯一の存在であったこと等から、駿河台大学大学院への進学を決めました。

実際、駿河台大学大学院では、犯罪心理学の概論から司法・臨床現場で求められる知識など非常に専門的な内容を学ぶことができています。その中でも、現役の司法現場で活躍されている講師の方による講義や実習による施設見学は、より私たちの学びを深めるものとなっています。

日々の講義のほか、修士論文への取り組みや国家公務員採用試験の対策も充実しており、学びの深い大学院生活を送ることができています。またコロナ禍の入学となったことで実習内容の一部変更はありましたが、実習に関しても十分に充実した経験ができ、有意義な大学院生活を送ることができています。私は犯罪心理学専攻に進学して良かったと思っています。

専門的に学ぶことができ、先生方との交流も近く、濃密な時間を過ごすことができます。犯罪心理学に少しでも興味がある方は、是非受験を検討してみてください。

## 経験から何を得るか

臨床心理学専攻2年 石川 大輔 (2020年度 駿河台大学心理学部心理学科 卒業)



私は、公認心理師、臨床心理士の資格取得のために大学院進学を決めました。内部進学を決めた理由は、慣れ親しんだ環境であれば、集中して学びを深めることが出来ると考えたためです。

大学院の講義では、学部頃と違い、自分で資料を作成して発表を行うという形式が多くなります。その際、皆にわかりやすく伝えるためには、まず自分がその発表する内容について理解を深める必要があると考えています。そのため、参考書を読みながら自分なりに考え、わかりやすく伝えるためにはどうすればいいかを検討しながら資料を作成していました。また、講義は少人数で行われるため、他の人の意見を聞く機会が多くあります。時には、自分が考えていなかった視点で意見をもらうこともあり、物事を多角的に捉える力がつけられ、互いに良い刺激を与えあっていると感じています。

カウンセリングセンターでの実習では、実際にクライアントさんの応対をします。その際、身だしなみや言葉遣いなど、カウンセリングセンターの一員として誠実な態度が求められます。こうした態度は、面接を行っていく上でも、とても重要な要素であると考えており、日頃から意識しています。また、先生方や先輩の姿勢を観察し、参考にさせていただくことも多々あります。

大学院の生活では、経験から何を学び取るか、自分なりに考えて糧としていくことが重要であると感じています。そのため、主体的に行動し、今体験していることがどんな意味を持つのか、今後の自分の活動にどう活かすかを考えながら実習に取り組むことを心掛けています。そうすることで、日々の経験を自分の力にすることが出来ると考えています。

大学院では、様々なことを経験するため、自分の興味関心をより深めることが出来ると同時に、新たに興味を惹かれる発見があると思います。このように自身の興味関心の幅を広げながら経験を積むことが出来るため、心理専門職として働くことを意識している方は、ぜひ進学を検討してみてください。

## 経験から学ぶ

臨床心理学専攻2年 平良 はるな (2020年度 駿河台大学心理学部卒業)



私は公認心理師、臨床心理士の資格取得のために大学院進学を決めました。駿河台大学の大学院を選んだ理由は、私自身新しい環境に慣れることに時間がかかるため、通い慣れている駿河台大学の大学院であれば勉強に集中できると考えたためです。

大学院の講義は学部と比べ少人数で行っているため、他の人の意見や考えを聞く機会が多くあります。そのため、大学院での講義は自分の価値観やものの見方、考え方に気づかされると同時に、他の人の意見や考えを聞き、自分の視野を広げることができる貴重な時間だと感じています。

カウンセリングセンターの実習では、多くのことを経験させて頂いています。実習では、ひとつひとつの経験が本当に貴重なものだと感じ、自分から学びにいく姿勢が重要になると感じています。そのため、どんなに小さな疑問でも先生方に質問することを心掛けています。それにより、多くのことを吸収することができ、有意義な時間を過ごせていると思います。

大学院への進学を検討している方にはぜひ、ひとつひとつの経験を大事にしてほしいなと思います。「進学を検討する」ということもなかなかできない経験だと思うので、自分の興味や関心が続く限り、将来の選択肢の一つとして検討し続けてみてください。

## 心理への興味を職につなげるために

臨床心理学専攻 2年 天邊 朱音 (2020年度 愛知学院大学心身科学部卒業)



私は、医療分野で働く心理士さんに興味があるのと同時に、司法・矯正分野にも興味を持っています。犯罪心理学専攻があり、犯罪心理を専門とする先生方がいらっしゃるこの大学なら自分の興味をより深堀することができ、本当に就きたい職業を見つけられるのではないかと思います。駿河台大学大学院への進学を決めました。臨床心理学専攻を選んだ理由は、臨床心理士、公認心理師の資格を取得し、心理師として働ける幅を多くとっておきたいと考えたからです。

大学院では、自分で授業のレジュメやパワーポイントの資料を作成し、それに基づいて発表を行うという授業形式が多くなります。また、質問をしたり自らの意見を発言したり、主体性がより求められるように感じます。また、大学付属のカウンセリングセンターで受付業務を行ったり、カンファレンスに参加したりといった実習も始まります。

資料作りは、どうまとめたら皆に伝わりやすいだろうか、分かりやすい資料になるだろうかと考えながら作成していたため、自然と内容について整理し、理解を深める経験ができました。実習では、面接室のしつらえや受付時の対応姿勢などを通し、心理士になる上での基礎的な姿勢を身に付けることができると感じています。カンファレンスでは、現場経験が豊富な先生方と意見交換をすることができ、「こういう視点でクライアントさんを見ているのだな」と参考になることが多く、とても刺激を受けます。

大変だと感じることはありますが、先生方や先輩、同級生の力を借りつつ、またお互いに支え合いながら、濃密で学びの多い大学院生活を送ることができると思います。

## 法務技官を目指して

犯罪心理学専攻 2年 石原 朱子 (2020年度 文教大学人間科学部卒業)



犯罪心理学専攻に進学を決めた理由は、将来法務技官になりたかったからです。その為にはより専門的に犯罪について勉強する必要があると思います、大学院に進学しました。

大学院の講義は、学生が資料をまとめ、発表という形式で行われることがほとんどです。資料をまとめる力、発表する力が身に付きます。また、疑問点はその場で先生に質問することができます。

大学院の生活では、講義を受ける以外にも、発表資料の作成や課題に取り組んだり、公務員試験の勉強などもしています。入学時に想像していたよりも忙しい毎日です。しかし、自分の好きなことを専門的に勉強できる時間が沢山でき、また元法務技官である教授からお話も聞けるので、とても充実した時間を過ごせています。

大学院では、実際にその職業についていた先生方から直接現場の話を知ることができます。自分の興味関心がさらに広がる2年間になると思います。犯罪心理学に興味のある方は是非受験してみてください。